

◆レベル1:点検項目◆

- 1 科研費の応募趣旨に抵触しないか
- 2 様式を変更していないか(枠、線、書式、ページ数等)
- 3 図を挿入している場合は、中身が見やすくなっているか(印字の際の状態を確認)
- 4 小見出しや図の配置は適切か(余白も必要)
- 5 記載項目ごとに整合性がとれているか(目的欄と計画方法、計画方法と費用)
- 6 計画と費用に整合性がとれているか。過大に計上されている費用はないか
- 7 成果の公表、利用について説明がなされているか。その為の費用が計上されているか
- 8 すでに予備的取組をおこなっていることがアピールされているか
- 9 研究体制の説明がなされているか
- 10 指定されたとおりに記入されているか
ex) 研究代表者・分担者・連携研究者の別、通し番号、査読の有無、代表者・分担者に下線等

<<<<ここがポイント>>>>

★ 研究計画(目的・方法)、研究体制、研究期間、研究経費で【整合性】がとれているか

⇒ 研究目的 — 研究計画・方法欄 — 経費欄 で書かれていることが整合していること

⇒ 研究期間・体制・経費 が、研究計画の難易度に対して納得のいくものになっているか

★ 準備状況・【成果発信】について記載しているか ※国民への還元を意識

⇒ 実現可能性をアピールするとともに、本研究から得られる成果の発信方法、利用方法、

成果の普及(広報)活動を行うことを記載しているか

ex) 政策提言、地域住民等関係者への説明会等の開催、学会発表、論文発表

⇒ 現在使用可能な施設、設備等、これまでに行ってきた研究やシミュレーション、予備的取組についても簡単に触れておく ※採択されればすぐに研究を開始できることをアピール

⇒ 研究分担者、協力者がいる場合、これまでの連携の状況を記載しておく

★ 【経費についての妥当性・必要性】が明確にされているか

⇒ 大きなウェイトを占める経費について説明がなされているか

⇒ 研究計画に即した配分となっているか、また積算根拠が示されているか

⇒ 成果発表やPR等のための旅費その他費用を計上しているか

◆レベル2: 点検項目◆

- 1 研究種目の選択ミスがないか
 - 2 申請区分の選択にミスがないか※
 - 3 課題名・要旨欄の記載に十分な工夫をしているか
 - 4 研究目的・研究計画の学術的背景を説明しきれているか
 - 5 研究期間内に明らかにする内容(成果)を明確にしているか
 - 6 研究の独創性、学術へのインパクト、波及効果を十分に説明できているか
 - 7 目標(研究成果)にたどりつく道筋・手法(研究計画・研究方法)に説得力があるか
 - 8 一般に理解される平易な文章になっているか(専門用語には説明をつける)
 - 9 一文の長さは適切か(長すぎる文章は嫌われる)
 - 10 分担者、協力研究者の数・役割分担は適切か
(著名な研究者をまじえるより、必要な分野を網羅しているほうが大切です)
- ※H30年度より、基盤B・C、若手研究は306の小区分、基盤A・挑戦的研究は65の中区分、
基盤研究Sは11の大区分で審査。

<<<<ここがポイント>>>>

★【**要旨欄**】の記載は十分に練られたものになっているか

⇒ 要旨欄は、全体の完成図を予め示す欄

※審査委員は、この欄を読んでほしいのあたりをつける

★【**意義・重要性、波及効果の説明**】が念入りになされているか

⇒ 学術的に推進すべき重要な研究課題であることを説明しきれているか

⇒ 科学技術、社会、産業、文化、環境等、アピールできるインパクト・波及効果についても説明

★【**学術的背景**】に関する内容は、正確か(引用を示す)

⇒ 学術的根拠の薄いもの、或いは、申請者の思い込みになっていないか

★【**研究方法・手順は具体的かつ詳細に**】記されているか

⇒ 実験方法に独自の工夫がみられるか

⇒ 計画内容と人員が対応しているか(協力者、アルバイト雇用等、具体的に記述しているか)

⇒ 計画通りにいかなかった場合の対処法を記述しているか

◆レベル3: 点検項目◆

- 1 独創性・革新性が担保されているか
- 2 研究ポイント＝構想・目的・目指すものの絞り込みを適切に行えているか
- 3 期間内で達成しうる範囲に設定できているか(広すぎず、狭すぎない範囲)
- 4 想定される反論に対応できているか
- 5 自立した研究計画となっているか ※若手申請者の注意事項

<<<<ここがポイント>>>>

★【独創性・革新性】の担保

⇒ **先行課題との差別化**がなされているか事前確認を！

※科研費DB,CiNii等を活用して、申請課題に関する主要キーワードの検索を行う。

【研究対象・手法・成果】いずれかにおいて独自の立ち位置、切り口をアピールする。

★ 目的が伝わるように配慮された文章になっているか

⇒ 審査員の記憶に残る書き方とは

1. 単純明快である 2. 意外性がある 3. 具体的である 4. 信頼性がある 5. 物語性がある

⇒ 科学技術、社会、産業、文化、環境等、アピールできるインパクト・波及効果についても説明

★【研究期間と目指す成果】の設定は適切か

⇒ 広い概念を有する「ビッグワード」を使ってテーマを設定すると、抑えなければならない領域が増える。実現可能性に疑問を持たれる。過去の類似研究との差異、特色が出しづらい。

★【想定される反論】を封じ込める記載になっているか

⇒ 「必要性」に関する反論: すでにおこなわれているのではないか? そもそも必要なのか?

取り扱うほど大きな問題なのか? 別に主たる問題(原因)があるのではないか?

⇒ 「有効性」に関する反論: 有効手段なのか? 本当に実現できるのか? 実行すればどの程度の効果があがるのか? 他に大きな不利益が生じるのではないか?

★【自立した研究計画】となっているか

⇒ 指導教員等、ベテランの先生のテーマを一部切り取ったようなテーマ設定になっていないか

⇒ ベテランの先生に指導を受けながら行う、といった研究計画になっていないか